

県外からの移住者受け入れによる課題と問題点

1. 浪江町復興支援員とは？

- ・正式な名称は「浪江町役場 生活支援課 復興支援員茨城県駐在」です。
- ・震災後、全国に10拠点に配置されており日本全国をカバーしてます。茨城県は、平成26年5月から水戸市に拠点を置いて、現在は3名で県内全域をカバーしてます。
- ・茨城県駐在員は、当事者で構成されてます。
- ・福島県浪江町から茨城県に避難している方々のサポーターです。

2. 主な活動内容は？

- | | | | | | |
|---------------|---|---|------------------------|---|---------------------|
| (1) 戸別訪問 | ⇒ | { | ・町民と役場を繋ぐ役割
・見守り、ケア | } | 避難生活でのストレスを少しでも緩和する |
| (2) ニュースレター発行 | ⇒ | { | ・避難元と避難先の情報発信 | | |
| (3) 他団体との連携 | ⇒ | { | ・コミュニティ支援
・その他必要に応じ | | |

3. 現状

(1) 福島県からの避難者数(移住、定住者含む)

※現在把握しているだけで約3,500名、そのうち浪江町から約1,000名強。少しずつですが今も人数は増え続けており、茨城県の人口に対し約700人に1人が茨城県で避難生活をしています。なお、そのほとんどの方が住民票を茨城県に移していません。(避難元に置いたまま)

家族が離れて暮らす2,3重生活など、生活資金等で茨城県に定住するか、福島県へ戻るか決められないでいる方が非常に多い。また、子育てや仕事関係で同世帯内でも意見の食い違いから、移住先を決められないと言う事情もあります。

(2) 震災・原発事故から4年半が過ぎましたが老若男女問わず、未だ地域のコミュニティーに溶け込めず引きこもりがちになっている方も少なくはありません。

4. 問題点

- | | | |
|---|---|--------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・土地勘がない・近所付き合いがない・コミュニケーションをする機会がない・地域住民へ積極的にアプローチしづらい(風評被害による)・友達が出来ない・文化(冠婚葬祭など)や言葉の違いを少し感じるため戸惑う・なかなか良い仕事にめぐりあえない・どこに相談して良いか分からない(生活や職業に関する事など)・行政との繋がりは安易だが、地域住民との繋がりが難しい | } | 年齢を重ねるごとに難しくなってくる。 |
|---|---|--------------------|

5. 快適に生活する為の課題

- ・既存のコミュニティーに自然に溶け込むきっかけをどう作っていくか。
- ・生きがいをどう作っていくか。
- ・様々な情報が得られやすい場所や環境。など...

仕事、趣味
人間関係の構築

6. よく耳にする茨城県のよさ(魅力)

- ・温暖な気候
- ・素材がいい
- ・東京に近い
- ・自然に囲まれている
- ・歴史、文化がある
- ・産業、農業、漁業が盛ん

生活するのに必要なものが揃っている

7. 解決策

茨城県の魅力を全国に発信し続け、それと平行し課題と問題点を1つずつ整理・解決していくことで、福島県からだけではなく全国からの移住者を迎え入れる環境、個人情報保護が厳しくされるなかでも共に助けあって生活する体制は自然に出来ていくと考えられます。

特に、地元の若い世代が問題意識を持ち積極的にに関わり、地域を盛り上げていくことも大事だと思います。